

特別展

ありもと ほうすい

2026.6.14(日)
》8.30(日)

生誕140年・没後50年

有本芳水展

詩人・歌人の有本芳水は、2026年に生誕140年・没後50年という節目の年を迎えます。これを記念して、特別展「生誕140年・没後50年 有本芳水展」を開催いたします。吉備路文学館は、昭和61年(1986年)秋に開館し、今年、開館40周年を迎えます。本展示では、開館以来、当館が収蔵してきた貴重な資料のなかから、芳水の著書をはじめ、直筆の原稿、色紙、短冊などを展示いたします。また、芳水と岡山とのゆかりについてもご紹介いたします。大正時代、少年たちが夢中になった芳水の詩の世界を、どうぞお楽しみください。

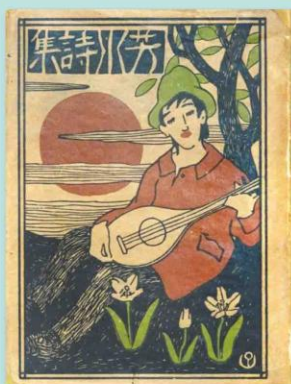


ありもと ほうすい
有本 芳水

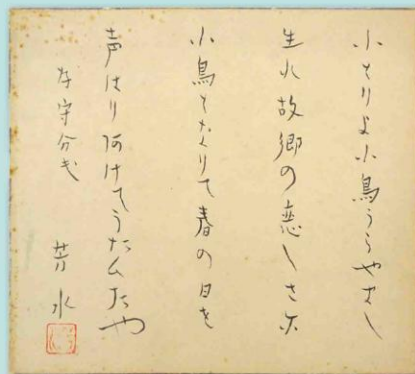
(詩人・歌人/明治19(1886)年~昭和51(1976)年/現・兵庫県姫路市生)

明治19年、現在の兵庫県姫路市に生まれる。本名は歡之助。33年、岡山に移り、私立関西中学校(現・関西高等学校)に入学。在学中から詩作をよくして、同人雑誌「白虹」に参加。上京し、早稲田大学を卒業後、實業之日本社に入社。雑誌「日本少年」の主筆として活躍した。大正3年、同誌に発表した詩を集めて刊行した『芳水詩集』は、竹久夢二が装幀を手掛け、当時のベストセラーとなった。

昭和20年、妻の故郷・岡山に疎開し、定住。岡山大学、岡山商科大学などに出講し、のちに岡山商科大学の名誉教授となった。

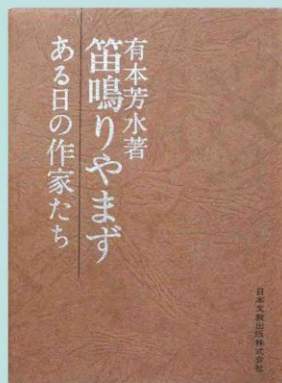


図書『芳水詩集』
(實業之日本社/大正3年)
装幀 竹久夢二



詩色紙 有本芳水筆

小とりよ小鳥うらやまし
生れ故郷の恋しさに
小鳥となりて春の日を
声はりあけてうたひたや
為守分氏 芳水



図書『笛鳴りやまず ある日の作家たち』
(日本文教出版/昭和46年)



備前徳利
中村六郎 作、有本芳水 自彫
芳水の詩「磬梯山にて」の一節が彫られている。

北泉庭のご案内

吉備路文学館には、小さな日本庭園があります。館内からゆっくりながめたり、庭をめぐってみたり。

春夏秋冬

四季それぞれの彩りをお楽しみいただけます。

〈交通のご案内〉

JRでお越しの方：岡山駅より徒歩15分、タクシー3分
バスでお越しの方：岡電バス(妙善寺・三野公園)行、
または宇野バス(美作方面)行で「南方交番前」下車徒歩3分
お車でお越しの方：文学館前の道路は午前東行・午後西行の一方通行です。



睡蓮



紫陽花

